

福精連

公益社団法人福岡県精神保健福祉会連合会
〒812-0046
福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50
電話092-292-0560 FAX092-292-0561
e-mail:fksr1974@fukuseiren.com
http://www.fukuseiren.com/
No. 125 令和8年4月1日



4 西鉄割引導入10周年事業の準備 来年度の運賃割引開始10周年に向け、「西鉄グループありがとうキャンペーン」の準備を開始し、感謝の意を社会へ発信します。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和8年度 運営方針
「家族会の灯を絶やさず、連携の力で未来を拓く」
本年度は以下を重点的に推進してまいります。
1 家族会の活性化と継承 「家族会会長会議」を新設し、持続可能な組織づくりを協議します。また「家族による家族学習会」を県内へ普及させ、ピアサポートの輪を広げます。
2 医療費助成の拡充 最重要課題である「重度障害者医療費助成制度」の実現に向け、各会・各事業所と連携した勉強会や署名活動、議会への働きかけを強化します。
3 相談事業と支援者連携の強化 県委託の「電話相談」を堅持し、心の拠り所を守ります。また、当事者を支える現場の支援者との連携を深め、「家族まるごと支援」を目指します。

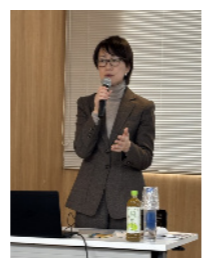
第30回通常総会報告
令和8年3月19日、福岡県中小企業振興センターにて「第30回通常総会（予算総会）」が開催されました。楢橋会長による開会挨拶の後、森川理事を議長に選出し、以下の議案について審議が行われました。
第1号議案… 令和8年度 事業計画・行事計画案
第2号議案… 令和8年度 予算案
第3号議案… 令和8年度 資金調達及び設備投資の見込み（予定なし）各議案とも慎重な質疑応答を経て、すべて原案通り採択されました。



「必要とされる」と「感謝される」と「愛される」と。これらを感じるこそが、人間にとっての究極の幸せである。障害の有無に関わらず、一人ひとりが地域の中で尊厳を持って生きていける社会。その実現に向け、支援者と企業が一体となって歩みを進めていく必要性を再認識する貴重なひとときとなりました。

「働く」ことを通じた究極の幸せ
また、講演の中で紹介された、「働く」とは単に収入を得る手段ではなく、職場において「褒められること」「必要とされること」「感謝されること」「愛されること」。これらを感じるこそが、人間にとっての究極の幸せである。障害の有無に関わらず、一人ひとりが地域の中で尊厳を持って生きていける社会。その実現に向け、支援者と企業が一体となって歩みを進めていく必要性を再認識する貴重なひとときとなりました。

事業所委員会主催研修会
「障害者雇用の現状と未来」
「誰もが輝ける地域社会を目指して」
3月3日（火）、福岡県中小企業振興センターにて、元厚生労働省の小野寺徳子氏を講師にお迎えし、障害者雇用の最新動向と展望についての研修会を開催いたしました。
■「社会貢献」から「経営戦略」への転換
小野寺氏が提唱された「福岡モデル」の核となるのは、**障害者雇用を単なる奉仕活動ではなく、企業の成長に不可欠な「経営戦略」と捉える視点**です。障がいのある方が働きやすい職場作り（業務の可視化や指示の明確化など）は、結果として全社員の働きやすさや労働生産性の向上に繋がる。
「会社に合う人を探す」のではなく、「人が活躍できるように会社側が変わる（環境調整）」ことが不可欠。と重要な視点を語られました。



この機関紙【福精連】は、共同募金の配分金によって作成されたものです。

月間「みんなねっと誌」を購読しませんか？
賛助会費（購読料を含む）
個人 年間3,600円
※団体は一部還元があるの
でお問い合わせを
郵便振込先
加入者名 みんなねっと
口座番号 00130-0-338317
電話番号 03-6907-9211

賛助会員加入のお願い
令和8年度の賛助会員の募集を行います。皆様のご協力よろしくをお願い致します。
年会費：個人 3,000円
 団体 10,000円
郵便局振込先
加入名：(公社) 福精連
口座番号：01760-7-84332
※福精連への賛助会費・寄付金は確定申告の際の寄付金控除の対象になります。

家族のための相談電話
〔相談時間〕13時～16時
月曜日 090-1366-7498
火曜日 080-3986-1980
水曜日 080-1729-1950
木曜日 080-1729-1950
金曜日 080-1729-1955
土・日曜日・祝日 9時～16時
080-1729-1955
※付録としてチラシを同封しております

令和7年度賛助会員の皆様
〈団体会員〉
・こころころクリニック
・医療法人 要会 かなめクリニック
・医療法人 陽山会 丸野クリニック
・医療法人 みらい 筑紫野病院
・医療法人 同仁会 乙金病院
・おか医院
下記へつづく

令和7年度ご寄付をいただいた皆様
・福岡県精神科病院協会 様
・福岡県共同募金会 様
・株式会社福岡マック 様
・株式会社ちくしの郷 様
・人に優しい町・田川をつくる会

行事案内
〔電話相談担当者研修会〕オンライン
4月13日（月）15時半～16時半
〔第1回 理事会〕福精連事務局
5月7日（木）
〔決算総会〕福岡県中小企業振興センター
令和8年5月22日（金）午後
〔家族・職員研修会〕オンライン
6月18日（木）予定
テーマ：虐待防止研修会
〔福精連大会〕ウエル戸畑多目的ホール
8月28日（金）午後
〔みんなねっと長崎大会〕ベネックス長崎
11月20-21日（金・土）ブリックホール
※会場は決まり次第ご連絡いたします

令和7年度賛助会員の皆様
〈団体会員〉（敬称略・順不同）
・医療法人社団桜珠会 可也病院
・医療法人成康会 堤小倉病院
・寿防災工業株式会社
・（一社）福岡県障がい者スポーツ協会
・株式会社ちくしの郷・匠
・福岡県精神保健福祉協会
・医療法人社団松和会 門司松ヶ江病院家族会「みのり会」
・社会福祉法人 福岡あけぼの会 サンサンはかた
・一般社団法人ちほやACT
・医療法人緑心会 福岡保養院
・一般社団法人Q-FACT
・鳥手そうめん販売株式会社
・社会福祉法人ほっと福祉会
・油山病院 家族会 あけぼの会
・医療法人富松記念会 三池病院
・医療法人紫陽こころクリニック
・医療法人和光会 一本松すずかけ病院
・医療法人信和会大牟田保養院
〈個人会員〉（敬称略・順不同）
・一木 猛
・石河 雄二
・白石 定子
・津村 美沙
・戸田 俊彦
・阿部 利民
・徳久 照道
・大平 実男
・松本 國寛
・渡辺 美穂
・富田 義之
・舟越 洋
・浦塚 真理
・木原 聡
・坂菜さつき
・楢橋 恭一
・福田 清隆
・今村 浩司
・齊藤 光子
・川本 茂子
・佐伯 大樹
・本田 俊慧
・鈴木 久子
・田川 裕二
・犬束 義光
・立山 利博
・森川 久美子
・中里 真一
・馬場 由紀子
・菅野 康子
・下川 展弘
・後藤 英一郎
・小野 雄史
・永末 雄大
・平山 一雄
・野澤 重信
・辻田 雄一
・山口 由紀子
・竹原 享
・隅谷 和生
・一ノ瀬 孝行
・判田 章江
・伊原加津代
・廣津 忠之
・國房 輝男
・金子 義郎
・山本 由美
・内原 守
・石田 健治
・永末 雄大
・下川 富子
・樋口 靖則
・古屋 岳治
・乙村 純治
・井上 恭子
・田原 純治
・平川 ミドリ
・六反 敏裕
・重富 裕司
・原 久美
・牧 マリコ



【編集】公益社団法人 福岡県精神保健福祉会連合会 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 6F
【発行】QSK九州障害者定期刊物協会 〒812-0068 福岡市東区社領1丁目12番4号
【年会費】3,000円（購読料含む）定価100円

令和7年度みんなねっと九州・沖縄ブロック家族会 佐賀大会

大会テーマ

〈わたしと家族が元気になる〉

令和7年12月11日～12日に、令和7年度みんなねっと九州・沖縄ブロック家族会佐賀大会が佐賀市で開催されました。

1日目は地元在住の尺八、篠笛、箏の演奏者による和楽器演奏のオーブンスレモニーで和やかに幕を開けました。

佐賀県精神保健福祉連合会、松田孝会長の開会挨拶に続き、来賓の佐賀県知事、山口祥義氏が登壇され、県として取り組む障害者施策の紹介とともに、みんなねっとを始めとする精神障害者福祉への力強い支援と励ましの言葉を頂きました。県知事ご本人からの暖かい祝辞に会場は大きな拍手に包まれました。

基調講演は『人は、人を浴びて元気になる』と題し、精神科医、夏莉郁子氏の講演でした。

夏莉先生と言えば、私たち家族の希望の星であり憧れの人です。精神科医でありながら、母が精神疾患であったこと、そして、自身も心を病んだことを公表されています。その過去を背負いながらも精神科医であること、心の葛藤を語られる姿は、私たち家族の歩んできた道と重なり、強く胸に迫るものでした。講演の中で語られたのは、「病気になる前は誰のせいでもありません」、「精神疾患になっても大丈夫な社会」、「自分を認めてくれる他者との関わりが何よりの回復の力となります」、「前に出られる人からで良いので手を挙げてほしい」などの心に響く言葉の数々でした。夏莉先生の、暖かく力強い言葉が、私たちを励まし支えてくれることになりました。

続いて、みんなねっとの岡田久実子理事長による活動報告の後、家族・当事者・支援職による和やかなトークライブで1日目は終了しました。

2日目の第1分科会は『わたしと家族がげんきになる対話』をテーマとして、さが恵比須メンタルクリニック院長、谷口研一朗氏の進行で、さが銀杏の会のメンバー（当事者、家族、支援者）による「対話」が行われました。「リフレクティング」という手法を使い行われる「対話」は、支える・支えられるの境界を超え、対等な関係性の中を言葉が行き来することで、参加者と登壇者の双方が元気になっていく、そんな手応えが感じられる場となりました。



第2分科会は『もし活〇しませんか？』親なき後ではなく親あるうちに〇』をテーマにハッピーホープ代表、豊里幸氏によるセミナーでした。豊里氏は、もしもに備える活動Ⅱ「もし活〇」という言葉を商標登録され、親なき後の問題の専門家として活動されています。①「エンディングノート」の重要性と②親なき後を記録する「親心の記録ノート」の必要性を、実際のノートを使って解説して頂き、「親なき後」という家族が直面する問題の解決のためのヒントを得ることができました。今大会を象徴するとも言える言葉が、大会パンフレットに寄せられた佐賀県知事の祝辞の中に、佐賀県出身の小説家、下村湖人の言葉として引用されており、ご紹介いたします。「互いに助け合わないと生きていけないところに、人間最大の弱みがあり、その弱みゆえに互いに助け合うところに、人間最大の強みがある」。

第2分科会は『もし活〇しませんか？』親なき後ではなく親あるうちに〇』をテーマにハッピーホープ代表、豊里幸氏によるセミナーでした。豊里氏は、もしもに備える活動Ⅱ「もし活〇」という言葉を商標登録され、親なき後の問題の専門家として活動されています。①「エンディングノート」の重要性と②親なき後を記録する「親心の記録ノート」の必要性を、実際のノートを使って解説して頂き、「親なき後」という家族が直面する問題の解決のためのヒントを得ることができました。今大会を象徴するとも言える言葉が、大会パンフレットに寄せられた佐賀県知事の祝辞の中に、佐賀県出身の小説家、下村湖人の言葉として引用されており、ご紹介いたします。「互いに助け合わないと生きていけないところに、人間最大の弱みがあり、その弱みゆえに互いに助け合うところに、人間最大の強みがある」。

すずめのお宿家族会 富崎博起

精神保健福祉家族・支援者研修会

リカバリーへの道のりと、支え合う地域の姿

1月16日、「精神障がい者と家族の自由な生き方を考える」をテーマに福岡県精神保健福祉センターとの共催で研修会が開催されました。当日は、家族会、医療機関、行政などから193名（ハイブリッド）が参加し、みなさんの高い関心が感じられました。研修会では、専門家、家族、支援者それぞれの立場から貴重なお話を聞く貴重な機会となりました。



①生きづらさの正体とリカバリー（大阪大学の陸山 正子氏）

「病気を恥ずかしい」と自責する「内なる偏見」からの解放と、一人の人間としての当たり前の願い（恋愛・結婚等）を支える大切さが説かれました。

②家族が学ぶことの意義（すずめのお宿家族会の隅谷 和生氏）

娘さんの発症による絶望から、家族会との出会い、家族学習会を通じて、家族が正しい知識を学び、対応の仕方を共に考えることで家族自身が元気を取り戻していく「相互エンパワメント」の重要性が語られました。

③その人らしさを大切にす支援（Q-ACTの白石 泰三氏）

支援者が「課題解決」を優先するのではなく、本人が「どうあったいか」という自己選択を尊重する関わりについて報告されました。アンケートでは、「本人の強みに着目する視点から考え直したい」「同じ立場（家族）の話に状況が浮かび、自分を振り返る機会になった」「支援者側の『無意識の思い込み』に気づかされた。本人の意向をすり合わせる支援が必要だと感じた」「家族が同情ではなく共感を求めているという言葉が印象に残った」「元気をもらった」「もっと多くの方に情報を届けたい」といった前向きな声が多く寄せられました。

当事者も家族も、自分らしく希望を持って地域でつながり合える社会を目指し、今後も学びと交流の場を大切にしていきたいと思えます。

誰もが希望を持てる 未来の創造をめざして

3月12日、東京の四谷区民ホールにて「精神障害者家族会全国組織結成60周年記念大会」が開催されました。本大会は、1965年の全国組織設立から60年という節目を記念し、これまでの歩みを振り返るとともに、今後の精神保健医療福祉のあり方を展望する貴重な機会となりました。

60年前の医療現場を記録したフィルム『人間の記録』分裂病に抗して』が上映され、医療の原点と尊厳について再考する場となりました。

今回の全国大会を経て、私たち福精連も、あらためてその使命の重さを痛感いたしました。先達が築いてきた「わかちあい・学びあい・運動」の精神を継承し、福岡の地においても、本人と家族が共に希望を持って自分らしい人生を歩めるよう、政策提言や地域での啓発活動にいつそう邁進してまいります。

筑後ブロック一泊研修会

令和8年1月8日・9日、うきは市にて一泊研修会を開催しました。事業所8ヶ所と家族会・福精連会長が参加し、現状の報告や課題について交流を深めました。

利用者および家族会の高齢化が進む中、日々の支援において生活面・金銭面のサポートを第一に考え、今後の方向性を見据えていく重要性を再確認しました。

研修で得た知見を活かし、地域で利用者を第一に考えた支援を行うとともに、ネットワークを広げることが、福精連の未来を期待できるものであると信じ取組んでいこうと思います。

筑後ブロック長 陣内 伸廣

電話相談員研修会

2月26日（木）、福岡県中小企業振興センターにて、電話相談の質向上と相談員相互の研鑽を目的とした研修会を開催いたしました。

■変化する現場への対応を学ぶ

講師には、認知症医療センター室長の江頭関巳氏をお招きしました。前半の講義では、相談対応の基本に加え、クライアントの精神疾患特性が変化しつつある現状が示されました。特に「一期一会」の精神で相手に向き合う姿勢や、対応困難時の具体的な指針についてお話しいただき、多くの参加者が感銘を受けていました。

■「孤独」を「共有」へ変えるグループワーク

後半はグループに分かれ、日頃の業務で抱えている悩みや困難事例について協議を行いました。普段は一人で電話に向き合う相談員にとって、横のつながりを感じられるこの時間は非常に有意義なものとなりました。

明石家さんまの言葉に学ぶ「生きるヒント」

春は卒業・進学のシーズン。皆様の周りにも、新たな門出を迎える方がいらっしやるかと思えます。先日、デイリー新潮にて配信された、タレントの明石家さんまさんが通信制学校の卒業式で贈った祝辞に関する記事が心に残りましたのでご紹介いたします。

（以下、デイリー新潮「明石家さんまがある通信制学校の卒業式にゲストとして出席。そこで発された言葉に卒業生や家族は大いに感動したという」より引用・要約）

■「努力」という言葉への考え方

さんまさんは「努力したのに報われない」と嘆くくらいなら、「努力という言葉を世の中からなくしたほうが良い」と語ります。結果にプレッシャーをかけるのではなく、自分が知らないうちに努力しているのが一番であり、「結果は後でついてくるかなあ」くらいの気持ちで良いと説いています。

■「苦労は売ってでもせよ」という言葉がありますが、さんまさんは逆。生かされている以上、何をやりた

いか、どう楽しむかが大切であり、あまり頑張りすぎなくていいというエールを送りました。

■「背中に逃げ傷なし」漫画『ONE PIECE』のキャラクターの言葉を借りて、「人を裏切ったり、騙したりせず、自分の選んだ道を誇り高く生きる」と（背中に逃げ傷を作らないこと）の大切さを強調されました。

記事の中の一節に、「人は自分を過信しすぎるから落ち込む。何があっても『こんなものだ』と思っていればいい」とあります。私たちの日常には予期せぬ困難もありますが、さんまさんのように「笑い」を味方につけて、明日への一歩を軽やかに踏み出していければ幸いです。少しだけ肩の力を抜いて、今日一日を「ときめき」とともに過「せませすように」。